

**主 題：価値ある人生****聖書箇所：ピリピ人への手紙 1章27節**

始める前に質問したいと思います。私たちの生きている目的はなんですか?「神様の栄光のために生きている」という返事がくると思います。でも、実際に私たちが行っていること、私たちが選択しているものを見れば、神様の栄光のために生きているということが、本当に見えるでしょうか?きょうは、ピリピ1:27をご一緒に学びたいと思います。パウロはこう書いています。

**ピリピ1:27**

「ただ一つ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。」(新改訳第3版)

このみことばの中に、「ふさわし」ということばがあります。「ふさわしく」ということばの意味が鍵だと思います。このことばは、「マッチング」「合うこと」「バランスがとれる」ということです。だから、きょうのメッセージを始めるにあたり、“天秤”を想像してください。そして、一番私たちが考えないといけないのは、その重さ、何を天秤に乗せるかということです。この1:27の中で、パウロは私たちに三つの真理を教えています。そのポイントは、1. 「福音の重さ」2. 「福音のはかり」3. 「福音の特権」です。その真理を通して、私たちがどういうふうを選択するべきか、それぞれについて見たいと思います。

**1. 福音の重さ 27a節****A. ただ一つ**

最初に私たちが一緒に考えたいのは、「福音の重さ」です。27節は「ただ一つ。」ということばが最初に出てきます。「ただ一つ」とは、どういう意味でしょうか?それを説明する前に27節の前、1章でパウロがどういう話をしていたかをまず理解したいと思います。1章で、彼は自分の状態を説明しています。1:12にこう書いてあります。「さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったことを知ってほしいのです。」(以下、新改訳2017年版)パウロは彼に起こったことや経験したことを説明していましたが、そこから方向を変えて、ピリピの人たちに向けて話します。そしてまず初めに、「ただ一つ。」と言うのです。これは、「ただ1個。ただ一つのとてもとても大事なこと。これだけを聞きなさい。」という意味で言っているのです。何がそんなに大事ですか?と考えるかもしれませんが……。

そして、天秤の一方にのせるものは、「キリストの福音」です。私たちは「福音」とよく言いますが、「福音」とはどういう意味でしょうか?何年前かに、礼拝に出たいと言って、息子の友達とそのお母さんがこの教会の礼拝に出て、そのすぐ後、そのお母さんが私のところに来て、「クリスさん、福音って何?」と尋ねました。アメリカ人としては、そういう質問をされたことはないです。日本では「福音」ということばは、未信者にはわからないことが普通かもしれませんが、自分にとっては、福音は何か、と聞かれた経験はなかったので珍しかったのです。だけど、もし私たちが尋ねられたらどういうふうに答えますか?「福音って何?」と聞かれたら、どういうことを言うでしょう?CSの答えは、よくわかりますよね。日曜日来るたびによく聞きます。祈りの中でも……。私たちは以前は罪があつて、でも神様が恵みでキリストを送ってくれたこと、そして十字架かかって私たちのために死んでくれて、そして三日後によみがえったこと、そういう答え(イエス様がしてくださった事実)はみんなが知っていると思います。でもその答えが、自分にとってどこまで重いかどうかを、少し考えてほしいのです。

**B. 福音の重さ**

パウロの答えは、ピリピ2：6－8に書いてあります。「：6 キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、：7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、：8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。」こういう事実を知っていますか？キリストの犠牲——神が人間になりました。なぜ人間になりました？私たちの犠牲のために、キリストが人間になりました。キリストが私たちのために死んでくれました。何で？私たちの罪のために、キリストが死んでくれました。キリストはしもべになりました。なぜ？本当は私たちがキリストに仕えるはずです。——これら全部は、私たちに神様の愛を理解させることができることです。

### 1) 福音の意味

では、私たちの心をご一緒に考えましょう。自分は神様の福音をどういうふうに理解をしているかを吟味しましょう。別の箇所でもパウロはこう書いています。Ⅱコリント13：5「あなたがたは、信仰に生きているかどうか、自分自身を試し、吟味しなさい。それとも、あなたがたは自分自身のことを、自分のうちにイエス・キリストがおられることを、自覚していないのですか。あなたがたが不適格な者なら別ですが。」私たちが本当に考えないといけないことは、自分が福音を本当にわかっているかどうか、理解しているかどうかということです。

### 2) 良いニュース

「福音」と私たちはよく言いますが、「福音」ということばは、ギリシャ語の「良い」＋「知らせ」という二つのことばでできています。もし私たちが本当にこの良い知らせを知っているなら、どのくらいの重さがありますか？天秤を思い出してください。一方に福音をのせてみて、その福音は、あなたにとって重いですか？そして初めて信じた時から今も同じように感じていますか？それとも、ちょっと慣れてしまっていないですか？初めて福音を信じた時に、あなたの生活、あなたの心は変わりましたか？福音は、あなたにとっては過去形のものでしょうか？それとも、あなたの現在にも未来にも関係がありますか？私自身にも皆さんにも尋ねているのは、福音に慣れてしまっていないかどうかを考えないといけないからです。福音の重さを感じているか？それとも、軽くなってしまっていないか？あなたにとって福音は、どういう意味を持ちますか？

### 3) キリストの重要性

また私たちは、福音についての自分自身の反応を考えないといけません。本当は、福音は私たちの心の中で一番重いものはずですが、どうですか？神様の愛を感謝していますか？逆に、私たちは神様を本当に愛していますか？パウロの模範をご一緒に見たいと思います。パウロの模範はピリピ1：20－21に書いてあります。「：20 私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキリストがあがめられることです。：21 私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。」パウロにとって、「キリストの福音」はすべてでした。だれの福音？ピリピ1：27には「キリストの福音」と書いてありますね。パウロが天秤の片方に置いた「福音を語ること」は、自分のいのち・自分のからだより重要でした。自分のからだと自分の気持ちは、福音にふさわしくなかった。パウロにとって一番重いものは、「キリストの福音」でした。なぜならこのように書いてありますね。「生きるにしても死ぬにしても」と。パウロが死ぬということは、キリストと一緒にいるということ。それはパウロにとって最善です。でも、生きていてキリストに仕えること、それも益だった。私も皆さんもこのような価値観を持ってパウロと同じように言えますか？死ぬことを、ある意味楽しみにしていますか？なぜかと言えば、キリストに会うことは、一番楽しみなことだから。この1：20－21節は有名なみことばであって、よく聞いていて暗記しているかもしれません。でももう一度、新しく初めて聞くみことばのように考えてください。私たちは本当にイエス様のために死ぬ準備ができていますか？キリストと一緒にいることが最善だと本当に言えますか？私たちは毎日いろんな

人々と会いますが、その機会に福音を伝えたり、自分の模範を通して神様の栄光を伝えたり……それを今楽しんでますか？

## 2. 福音のはかり 27b節

### A. 「はかり」意味 - 天秤

今、天秤に置いた片側を見て、福音の基準ということを考えました。すごく重いと感じていますか？これからは福音の重さではなく、「福音のはかり」ということを考えたいと思います。27節「ただ一つ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。」「ふさわし」とは、どういう意味でしょうか？本当にふさわしい生活とは何でしょうか？「ふさわしく」とは「合う」「バランスがとれる」「はかること」です。私たちが、自分の考えていること、行っていることをすべてその天秤にのせて、反対側にのせている「重い福音」と比べないといけない。今、天秤は学校以外ではあんまり使わないので、見ることはないでしょう。けれど天秤にかけることは、私たちにとって、毎日考えなければならないとても大事なことです。さっきは天秤の一方にのせた「考えられないほどのキリストの福音の重さ」を考えました。では、天秤のもう片方に何をのせるのか？私たちの生活のすべての部分をのせて、比べないといけない。私たちがすること、考えること、動機も、すべてをのせて、どう比べていますか？福音の重さと合いますか？私たちのしていること、考えていること、気持ちも、「考えられないぐらいの重い福音」にふさわしいかどうかを、どういうふうにはかっていますか？私たちの性格でもいい、選択事でもいい、私たちの態度、行うことは、どういうバランスをとっていますか？

男性たち、結婚しているなら、自分の妻への愛が、その福音にふさわしいですか？妻たち、自分ご主人への尊敬は、福音にふさわしいですか？子たちも、お父さんお母さんに従うこと、それは福音にふさわしいですか？私たちの赦すことも、福音にふさわしいかどうか……こう考えるとリストが長いです。私たちの仕事、自分の口から出てくることば全部、子育て、教会に仕える奉仕も、お金の使い方、時間の使い方、全部の賜物の使い方……すべてを私たちは比べないといけない。

でも天秤のことで考えると、あるものは、福音にふさわしいかどうかを比べるとときもあるけれど、全然比べる価値がないものもありますね。例えば、私たちの罪。誘惑が来るときもあります。私にも誘惑がいっぱい来ます。戦わないといけないのは、毎日毎日のことです。だけど、私たちが心の中でずっと、これは福音にふさわしいかどうか？とよく考える心を持っていれば、誘惑が出てくるときに、これは全然価値がない、とはっきりわかります。そうすると、そのような価値がないものを捨てるのが、しやすくなります。なぜかと言えば、これは価値がない、とわかるはずですから。

### B. パウロの模範

パウロは、そういうふうを考えました。先のピリピ1:20-21をもう一回り読みたいと思います。これを通してパウロの天秤がわかりますか？天秤とは書いてないですよ。でもよく考えると、パウロは比べています。20節から「:20 私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキリストがあがめられることです。:21 私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。」この中でパウロは、生きても死んでも、彼は自分のからだには価値がなくて、キリストが一番だった。そして彼は、生きることがいいか、死ぬことがいいかを選びにくかった。なぜそれがわからなかったかと言えば、どちらが一番神様に栄光を期すことができるのかを考えたからです。イエス様に目と目を合わせて会うことは、彼にとっては一番だった。だけど、周りの教会の皆さんを成長に導くことは、彼にとっては重要だった。だから、結局パウロはそのことも選びました。私たちはどういうふう天秤を使って考えないといけないか？毎日毎日自分が行っていること、考えていることを、はかることがすごく大事です。

## 3. 福音の特権 27c節

### A. 「歩く」ではなく、「生きる」

そして、「福音の特権」ということも考えたいと思います。27節「ただ一つ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。」というふうに書いてあります。普通パウロのパターンとして、こういう励ますことばを使うときには、「生活しなさい」という動詞より「歩みなさい」とよく言います。例えばIテサロニケ2：12に「歩む」ということばが出てきます。コロサイ1：10にも「歩む」ということばが出てきます。きょう一緒に読みたいのはエペソ4：1です。こうパウロが言います。「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。」最後、見ましたか？わかりましたか？「ふさわしく歩みなさい」とありました。それが彼のパターンだったら、なぜこの27節では「歩む」という動詞を使わないで、「生活しなさい」ということばを選んだのでしょうか？

## B. 「生きる」の意味

まず「生活しなさい」の意味をちょっと考えたいと思います。「生活しなさい」という動詞の中の部分で、ギリシャ語の「ポリス」ということばがあります。その「ポリス」ということばは、英語ではいろんなことばでよく使われます。例えばPolitics 政治、Police 警察、Policy 方針、Polite 丁寧……これらのことばには「ポリス」いう部分があって、その「ポリス」の意味は、「町」とか「市」。そうすると27節は「ただ一つ。キリストの福音にふさわしく市民のように生活しなさい。」と訳すことができます。

## C. 「国籍」の意味

「国籍」「国民」とはどういう意味でしょうか？「国民」とは、「自分の国に属する」という意味があります。国籍を持っている人は「自分の国を愛している」ということです。また国籍を持っているので、「自分の国ゆえの特別な権利がある」ということです。私は日本人ではないですが、皆さんはどうですか？日本に属しているという気持ちはありますか？日本のことが大好きですか？今オリンピックが始まっていますね。見えていますか？応援していますか？そして、日本人だから特別な権利がありますか？

## D. ピリピとローマの関係

### 1) ローマへの愛

ピリピはローマの中にあつた国です。ローマは、でっかい国で、その中に小さな国がいっぱいありました。ローマはイタリアにあります。ピリピは結構離れていてギリシャにあります。それでもピリピの人々はローマに属する気持ちが強かった。ピリピはローマのことが大好きだった。自分たちにとっては、ローマ人であるということ、ローマの国の中にいるということは、誇りだった。だから、ピリピはローマからは遠かったけれど、ローマの建物の形を真似したり、ローマのファッションも真似していたので、ピリピの人々はローマ人に似ていた。ラテン語も話していた。ピリピの町の人々はローマのことが大好きでした。また、ピリピには特別な権利もありました。いろんな国がローマの中にあつたけれど、そのすべての国の国民が、重要なローマ国籍を持っているということはなかった。でも、ピリピは違う。ピリピは特別でした。ピリピの町の全員がローマ国籍を持ちました。何で持つことができたか？ピリピに住んでいたローマの特別なふたりの兵士が、とても大切な戦いに勝利したために、ピリピの人々は、ローマから特別にローマの国籍をもらいました。そのため、ピリピの人々にはローマの特別な権利もありました。

## E. パウロとローマ

### 1) ローマの国籍

パウロとシラスがむち打ちにされた話を覚えていますか？この時、ローマ市民でもあるパウロは、その特権を主張しました。使徒16：37にこういうふうにあります。「しかし、パウロは警吏たちに言った。「長官たちは、ローマ市民である私たちを、有罪判決を受けていないのに公衆の前でむち打ち、牢に入れました。それなのに、今ひそかに私たちを去らせるのですか。それはいけない。彼ら自身が来て、私たちを外に出

すべきです。」」ピリピの教会の人々もピリピ人であるので、ローマの国籍を持ち、ローマ市民として生活するということがどういうことかを、よく理解していました。そんな彼らに、何より大事な天の国籍を与えられた者として、「**キリストの福音にふさわしく**」生きるとはどういうことなのかを、彼らがよく理解できるように、パウロはこの箇所では「歩みなさい」ではなく、あえて「**生活しなさい**」ということばを使ったのです。

## F. 二つの国籍

皆さんは、自分が天の国籍を持っていることをよく考えますか？私は正直、そんなに考えなかった。大事にしていなかった。けれど、パウロはピリピ3：20でこういうふうに教えています。「しかし、**私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。**」どうですか？自分は天国に国籍があるということをよく考えますか？皆さんにとってそれは重要ですか？よく考えれば重要なことだと思います。そして考えましょう。私たちにはこういうギフトはふさわしいですか？ピリピの町の人々がすばらしいことをしたからローマの国籍をもらいましたか？違いますね。彼らが何か良いことをしたのではなくて、兵士たちがその町に住んでいて大事な戦いに勝利できたから、ピリピの人々はローマの国籍をもらいました。私たちも同じことが言えます。私たちが何かすばらしいことをしたから天の国籍を持っているのですか？違いますね。私たちにもキリストの働きがあったから、私たちは天の国籍を持ちました。ピリピの兵士たちがすばらしい勝利をおさめたから、ピリピの町の人々には価値がないのに重要な賜物をもらいました。キリストが十字架の上で死んでくれたから、私たちは天国の国籍をもらいました。

そうすると、これについてどういう反応が出てくるはずですか？もちろん感謝ですよ。そして神様を愛するという反応が出てくるはず。でもそれだけではなくて、もし隣に座っている人に信仰があるなら、どこの国から来ても私たち全員が天国の国籍を持っているということ。私たちは同じ国から来ている人たちです。

この「生活しなさい」という動詞は“現在形の命令”です。命令というのは、私たちがしてもしなくてもいいことではなくて、私たちがしなければいけない。選べる権利はないのです。主から命令されている、私たちはこういうふうに生活しないとイケない、ということです。そして現在形ということは、一回りして終わりという話ではなくて、毎日毎日継続して、一瞬一瞬これ考えないとイケないということ。これは簡単なことではありません。自分の態度、自分のしていること、考えていること、気持ち、一つ一つ全部を一生懸命見ること、比べることは時間がかかりますし、し終えました、ではなくて、毎日の生活です。皆さん、福音の重要さをどこまで感じていますか？忘れていませんか？それとも、もともと知らなかったですか？私たちは毎日毎日自分の生活を天秤にのせて比べないとイケません。

きょうは福音の重さを一緒に見ました。福音のはかりも一緒に見ました。そして最後、福音の特権を見ました。どうですか？皆さん。毎日、自分の生活の全部の部分を比べて、自分の生活は福音にふさわしいかどうかをはかっていますか？もし、きょう、本当の福音の重さを理解できて、自分の生活と比べたら、自分は福音にふさわしいですか？答えはNOでしょう。自分の生活は価値がありません。どんなに頑張っても自分の生活とイエス様の働きと比べたら、ふさわしいわけではないでしょう。では、どうしたらいいでしょう？あきらめますか？違いますね。私たちは毎日毎日あきらめないで励みましょう。キリストにふさわしく生活できるように。それを神様が私たちに命令されているということは、神様の恵みを通してそれができる、ということです。兄弟たち、私たちが神様の恵みを通して、そして神様の大きな大きな愛を通して、私たちはキリストの福音にふさわしく生活しましょう。